

『増上寺の夕勤行体験と講演会』開催

講演…俳優座所属 女優 有馬 理恵 さん
 演題…「いのちの豊かさを求めて〜釈迦内枢唄の公演に携わって〜」

本会加盟団体の人権問題担当者を対象に、各団体が取り組んでいる人権啓発活動に関しての報告や、同和問題解決に向けた対策などを話し合う『人権問題連絡協議会』が六月五日に浄土宗大本山増上寺で開催された。また、協議会開催に併せ、本会賛助会員及び一般の方を対象とした『増上寺の夕勤行



講師の有馬理恵さん

体験と講演会』も併催された。

本年四月一日より公益法人へ移行した本会は、一人でも多くの一般の方に、私達が取り組んでいる人権啓発活動を知っていただきたいと考え、前期より上記協議会と併催して講演会を行なっている。

今回、参加者には増上寺大殿内で毎日行なわれている夕勤行に体験参加していただき、その後、通常では入ることのできない大殿三階仏間で開催の講演会に参加いただく催しを計画し、本会のホームページやダイレクトメールで広く参加募集を行なった結果、定員の百名を超える参加者が集まった。

この講演会で講師を務められたのは、水上勉原作の戯曲『釈迦内枢唄』（しゃかないひつぎうた）の主演で俳優座所属の女優、有馬理恵さん。『釈迦内枢唄』は劇団希望舞台が一〇〇〇回公演を目指し、全国各地で公演を続けている。

同公演は、第二次世界大戦末期に秋田県の花岡鉦山で起きた強制労働事件を背景に、火葬場の跡継ぎとなるふじ子を主人公とした物語。朝鮮半島からの強制徴用により、鉦山などで過酷な環境と非情な条件下で働かされた外国人労働者や、職業による差別問題について、さらには戦争による歪んだ国家権力の行使について鋭く、かつやるせなく描かれている。有馬さんが演ずるのは、こうした差別や権力と必死に戦う人々の心境や、「いのち」の尊厳を全身全霊で訴えかける舞台だ。

講演の中で有馬さんは、『釈迦内枢唄』の一部を二〇分間のひとり芝居にアレンジして演じた後、幼少からの境遇を語り、高校時代にこの舞台と出会った感動や、長らく疎遠であった祖父母との交流を通じて、差別や戦争の悲惨さを憂う気持ちを包み隠さず丁寧に語



大勢の皆様にご参加いただきました（増上寺大殿三階道場）

った。大殿三階道場に集まった参加者は一様に感動を受け、涙を流す参加者もいた。

なお、舞台『釈迦内枢唄』の講演に関するお問い合わせは、劇団希望舞台制作部（☎〇九〇―二七七九―五九一七）まで。

<http://www.kibou-butai.com/syaka/>